

# ひとはくのハチ類コレクション・プロジェクト

## – 世界に誇れるハチ類コレクションのさらなる充実と活用を目指す

博物館の規模や特色は収蔵する標本の種類や数でよく語られます。人博のハチ類コレクションは、文字通り世の中に二つとないタイプ標本や研究資料、そして日本だけでなくアジア各地の標本からなり、当館を特徴づけるコレクションになっています。本プロジェクトでは、当館のハチ類コレクションのさらなる充実と活用に取り組んでいます。

日本のハチ・アリの研究は世界のトップレベルにあります。これは、常木勝次、岩田久二雄、坂上昭一博士という優れた3人の先覚者が日本にいたからです。人博では常木博士の600点近い日本産ハチ類のタイプ標本(新種が記載されたときに基準とされた標本)をはじめ、3博士のハチ類標本、フィールドノート、スケッチ等の研究資料を収蔵保管しています。本プロジェクトでは、これらの貴重な収蔵標本・資料を基盤として、他の研究者やコレクターからのハチ類標本・資料の収集を積極的に進めてきました。とくに、今年度は、常木博士から指導を受け、ハチ研究者になられた羽田義任氏の4万点に及ぶ

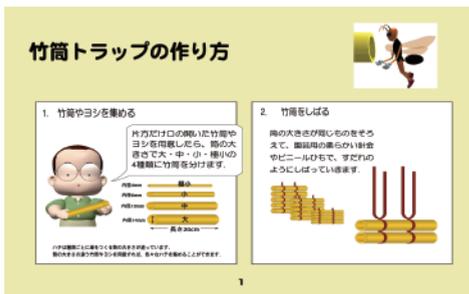
ハチ類標本の寄贈をいただきました。この羽田コレクションには日本産カリバチ・アナバチ全種のオスとメスの標本が含まれています。

ハチ・アリの仲間は30万種に達する最も多様性の高い生物群の一つで、その生態も多彩です。昆虫としては珍しい巣作りや子育てをするもの、さらには社会生活をするものまであります。また、花粉の媒介など生態系維持でも重要な役割を果たしています。こうしたハチ・アリ類の特性は、自然の多様性や重要性を学ぶのに良い素材となります。本プロジェクトでは、収蔵庫の整備や拡張にも取り組み、当館のハチ・アリ類コレクションの整理を促進することで、研究や展示、生涯学

習プログラム開発へのコレクションの活用も図って行きます。



フィールド・ノートやスケッチ等の研究資料も収集保管し、さらにデジタル化して保存する作業にも取り組んでいます



展示や生涯学習プログラムへの活用



プロジェクト名 人博ハチ類コレクション・プロジェクト  
 代表者：橋本佳明（系統）  
 分担者：山内健生（系統）  
 協力者：山根正気（鹿児島大） 清水晃（首都大） 小西和也（愛媛大） 遠藤知二（神戸女学院） 市岡孝朗（京都大） 福井ハチ研究会 他